

「主体的・自律的な学び」を実現するための遠隔授業での取組

～ICT を利用した交流を通して～

遠隔授業配信センター 主幹教諭 上田 妙

1 はじめに

平成30年告示の学習指導要領「外国語科改訂の趣旨及び要点」において「やり取り」や「即興性」を意識した言語活動が十分ではないことが指摘されているが、私が担当している遠隔授業においても2年生が2校から各1名という実態もあり、「創造的思考や感性などの資質を伸ばし、他者とのコミュニケーションの能力を図る」という理想の授業とは程遠いものとなっていた。そこで、今年度は学校の理解を得て、放課後の授業時間外に2校の二人の生徒をGoogle Meetを中心につなぎ、英語による交流を行うことを計画した。生徒が交流することでモチベーションを高め、生活の一部として主体的・自律的に英語学習に取り組んでもらいたいという願いもあった。

2 実践の内容・方法

(1) プレゼンテーション

普通の授業では伝える相手が教員しかいないため、どうしても発表へのモチベーションをもつことが難しい。英語を使って内容を伝えることが大切であるが、どうしても教員と生徒一人となると、英語のトレーニングという側面が強くなってしまふ。そこでこの交流6回のすべての回にミニプレゼンテーションと質疑応答をすることを計画し、この交流の柱とした。生徒たちは互いに伝えたいという気持ちがあり、最初は緊張していたが、回を重ねるごとにスムーズにプレゼンテーションができるようになっていった。テーマは「私の好きなもの」、「私の趣味」、「訪れたい国」、「おすすめの本」、「ALTの先生に紹介したい場所」、「私の未来予想」など、授業とも連動した身近なテーマで行った。「ALTの先生に紹介したい場所」に関しては、実際にALTにも参加してもらい、質疑応答を行った。生徒は積極的に写真や動画等を共有したり、趣味の紹介などでは実物を持参したりして積極的に行っていた。



(2) 英語ディベート入門編

授業内では生徒同士のやりとりを取り組めないため、交流を通してディベート等の活動を行いたいと考えた。まずは議論の最低の構成要素となる主張(assertion)と裏付け(support)について説明し、自分の意見を理由とともに述べる練習をした。その後ディベートの立論、反論について説明し、ピンポンディベートの形式で意見に対する反論の練習をした。

(3) 英語の歌

放課後の交流ということもあり、生徒の興味・関心のあるものを取り入れたいと考え、英語の歌を簡単なディクテーション活動とともにに行った。歌えるように指導することは控え、英語の歌を聞いて楽しく英語に慣れ親しみ、英語に触れる習慣をつけてもらう目的で行った。

(4) 動画・アプリの紹介

動画は遠隔授業当初から使用しているが、生徒がより自律的に英語学習に取り組めるように、文法や英語の音声自学の際に参考になる「あいうえおフォニックス」や単語学習アプリ Mikan などを実際に見せながら紹介した。

(5) 課題の共有

交流会外でも Google Classroom を通して2年生として学習しておきたい語彙、文法、リーディング、ライティング等の課題を共有した。夏季休業中には英字新聞の温暖化に関する意見の記事を読んで感想文を英語で書き、その感想文を各自が Classroom に投稿し、お互いがそれを読んで英語で短いコメントを書き合うことにした。

3 実践の成果

(1) プレゼンテーション

短い内容ではあるが、生徒はこちらが思っていた以上に相手意識をもってプレゼンテーションすることができおり、英語を通して自己表現する機会をもつことの重要性を改めて感じた。遠隔授業において、英語の2校同時配信には現在のところ音声面での課題が大きく、実施が難しいが、ICTを通しての生徒同士の英語での交流はさらに進めていくことができると感じた。また、英語でのスムーズな質疑応答には課題があると感じたので、生徒が間違いを恐れず自信をもって英語で質問や回答ができるように、授業では疑問文の指導等に加え、英語をアウトプットする機会を増やし、英語で積極的にコミュニケーションを図る態度を養っていきたい。

(2) 英語ディベート入門編

今回は時間も限られていたため、本格的なディベートには至らなかったが、生徒たちは短い時間でも理由付けや反論など真剣に取り組んでおり、アンケートでも一人の生徒は、この交流でディベート入門が「一番ためになった」と回答していた。毎年ディベート大会を通して論理的な思考力や英語力を身に付けている生徒たちを目の当たりにしているのも、なんとかディベートの要素を遠隔授業で、小人数でも実践しながら指導できないかと思った。人数の多い別の学年でも取り組んでみたが、遠隔授業では二人以上の生徒がやり取りしている場面の聞き取りが困難であり、中間評価をしてフィードバックをするような形での言語活動の指導ができない。生徒が自信なさそうに述べている良い発言を拾ってほめることができないことがもどかしいと感じた。しかし、いわゆる書面ディベートやチョークディベート等の活動はJamboardやGoogle Classroomのストリーム上で行うこともできるので、今後実践してみたい。

(3) 英語の歌

放課後の活動ということもあり、今回は歌詞のディクテーションを除いて完全なお楽しみ活動となったが、授業で取り上げる際は、音声指導と関連させて発音のポイントなども絞って実施したい。

(4) 動画・アプリの紹介

アンケートによると、二人とも「授業で紹介した動画を自宅で見直したりしている」と答え、また「語彙力を向上させるようにアプリを使った単語帳を作って勉強している」とも記述していた。同時に、生徒たちは自分で実際に英語を書いて学習することの大切さも認識しているようなので、自分の学習に役立つように適切に動画やアプリを活用しながら学習している様子を窺うことができ、嬉しく思った。

(5) 課題の共有

ライティング等で互いの書いたものを読んで生徒同士がフィードバックするという活動は教室では比較的簡単に行える活動であるが、Google Classroomを使用して自分のペースで自分の良い時間に推敲もして投稿するというのも良いと思った。回数が少なかったため成果はほとんどないが、相手意識が大切な英語教育において、遠隔で行うことが不利に働かないような工夫をしていかなければならないと思う。

4 課題及び今後の取組

一定以上の英語力を付けるためには、英語を主体的・自律的に学習し、あらゆる形で英語に触れることを習慣としないといけない。今回は「他者とのコミュニケーション力を向上させる」ということと、「英語を生徒の日常生活の一部とする」という二つのことを念頭においての取組であったが、生徒アンケートでは、「交流を通して、新しい発見があり、勉強になったことがあった。英語学習のモチベーションが高まった。」と学習に対して前向きな記述が見られた。また、新たなアプリを自ら利用して家庭で学習している様子も窺えた。今後も、遠隔授業における生徒相互のコミュニケーションや自律的な学びについて考えていきたい。